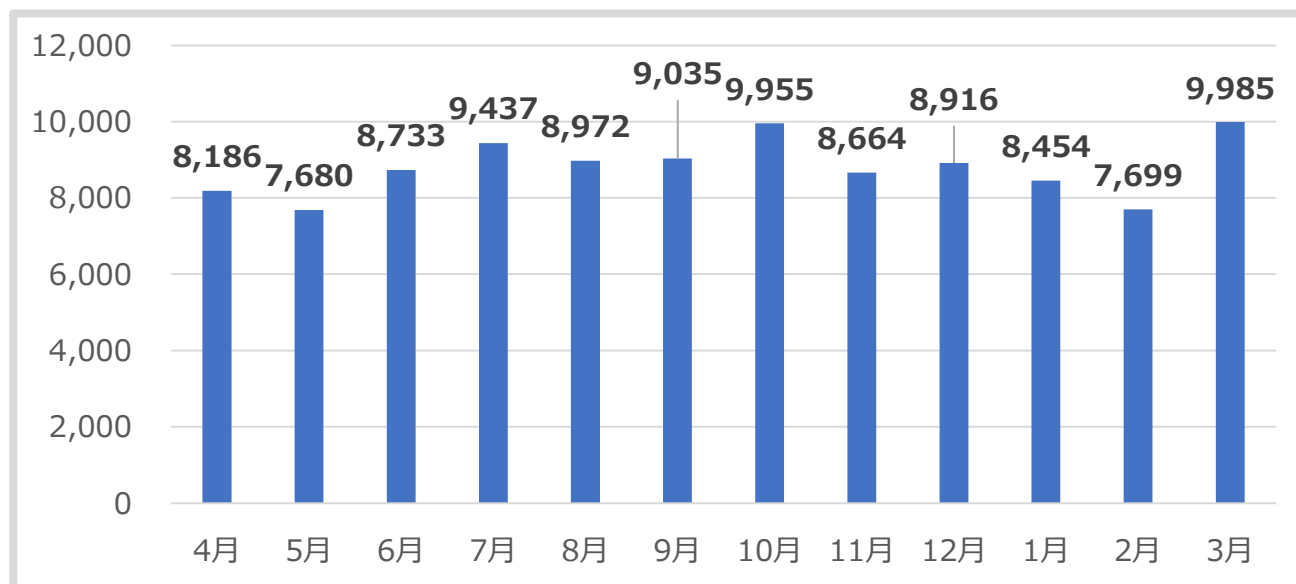


公立神崎総合病院
クリニカルインディケーター
(臨床指標)
2020 年度版

外来患者数

単位：(人)



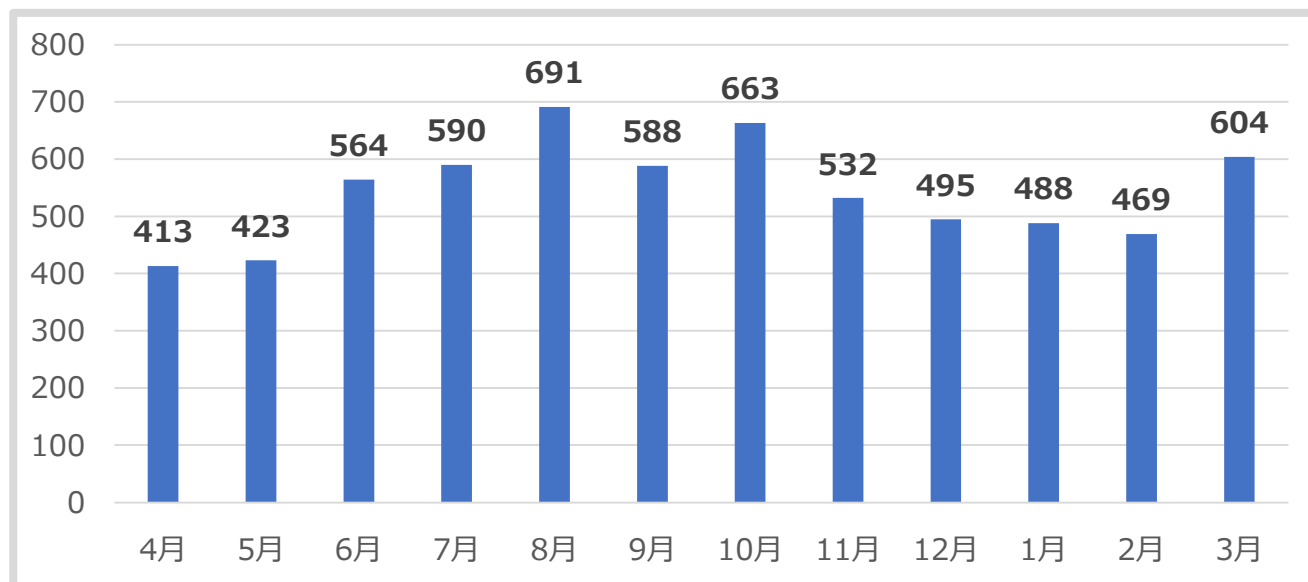
※初診・再診を含むすべての方を対象に集計しています。

※同日に2科以上受診された場合、それぞれ1カウントしています。(2科受診された場合は2人として計上)

※年間の合計は105,716人でした。

初診患者数

単位：(人)

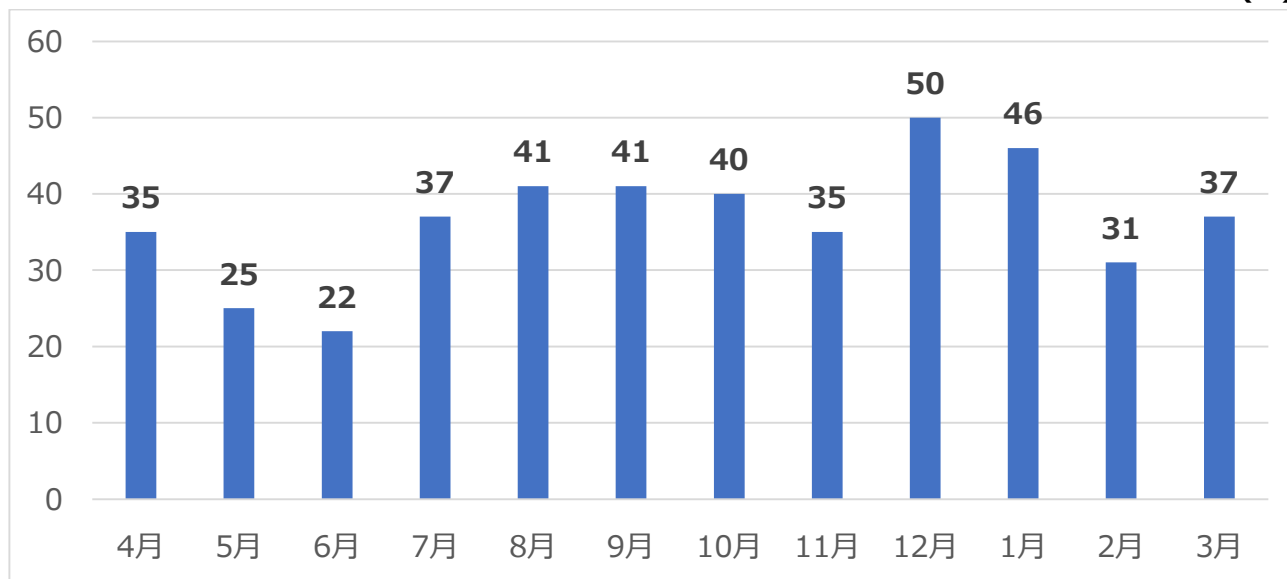


※外来受診された方のうち、初診料を算定した人数を計上しています。

※年間の合計は6,520人でした。

救急搬送患者数

単位：(人)

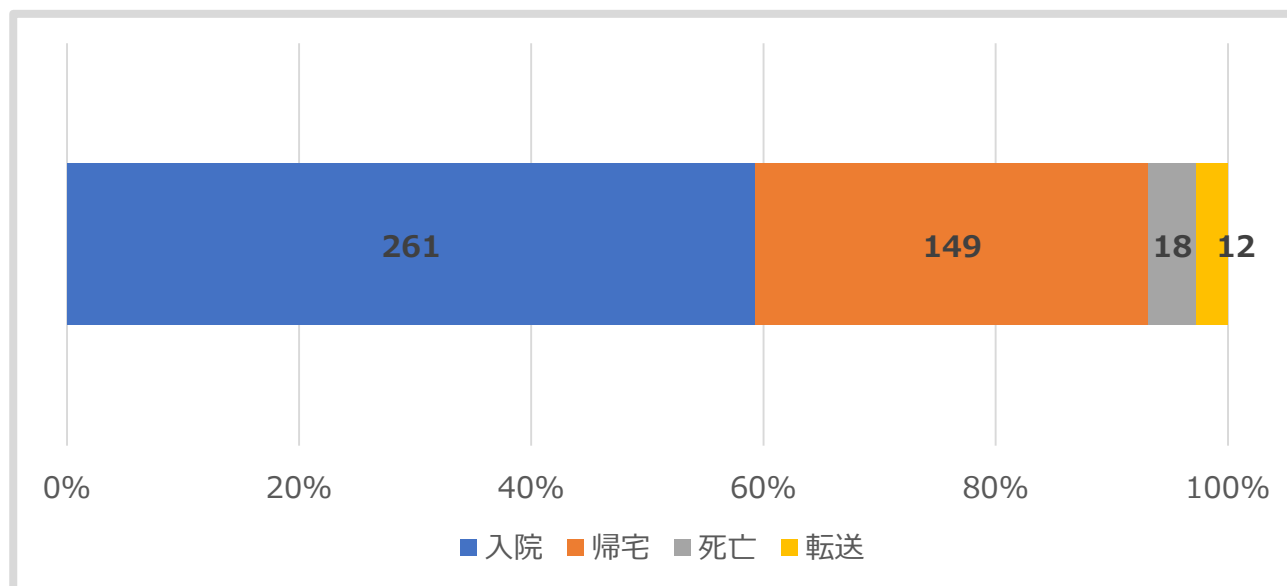


※救急車で当院に来院された人数です。

※年間の合計は 440 件でした。

救急搬送患者入院・帰宅・転送・死亡構成比

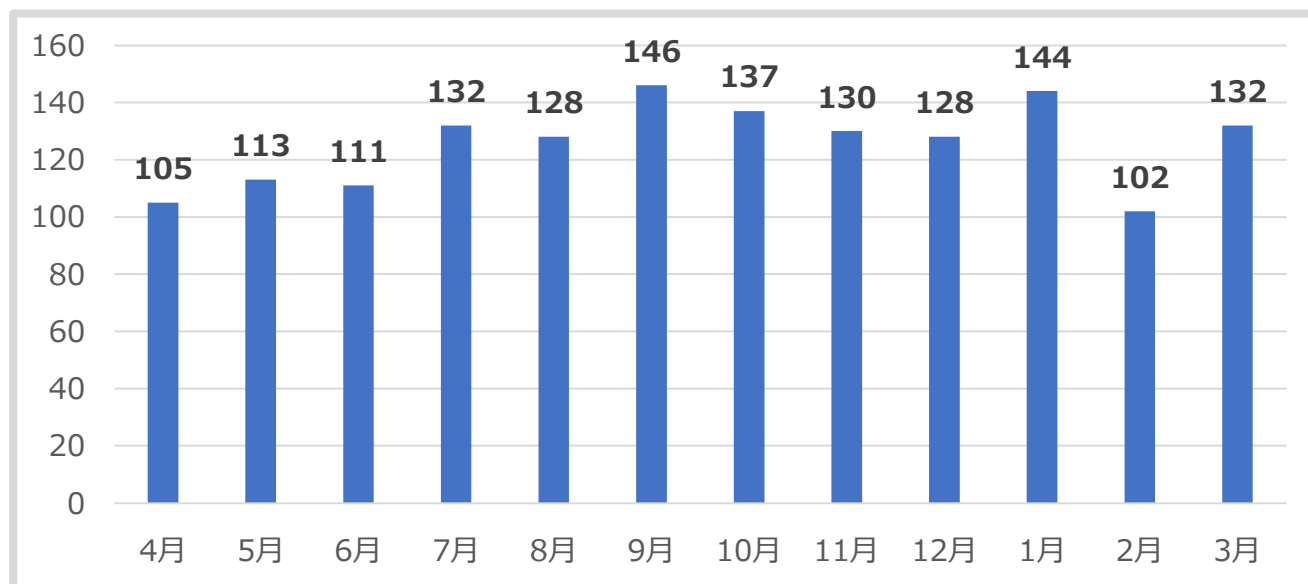
単位：(人)



※救急車で来院された方が最終的に入院・帰宅(自宅療養または外来通院、診療終了)・死亡・他院へ転送のいずれの結果になったかを集計しています。

月別入院患者数

単位：(人)

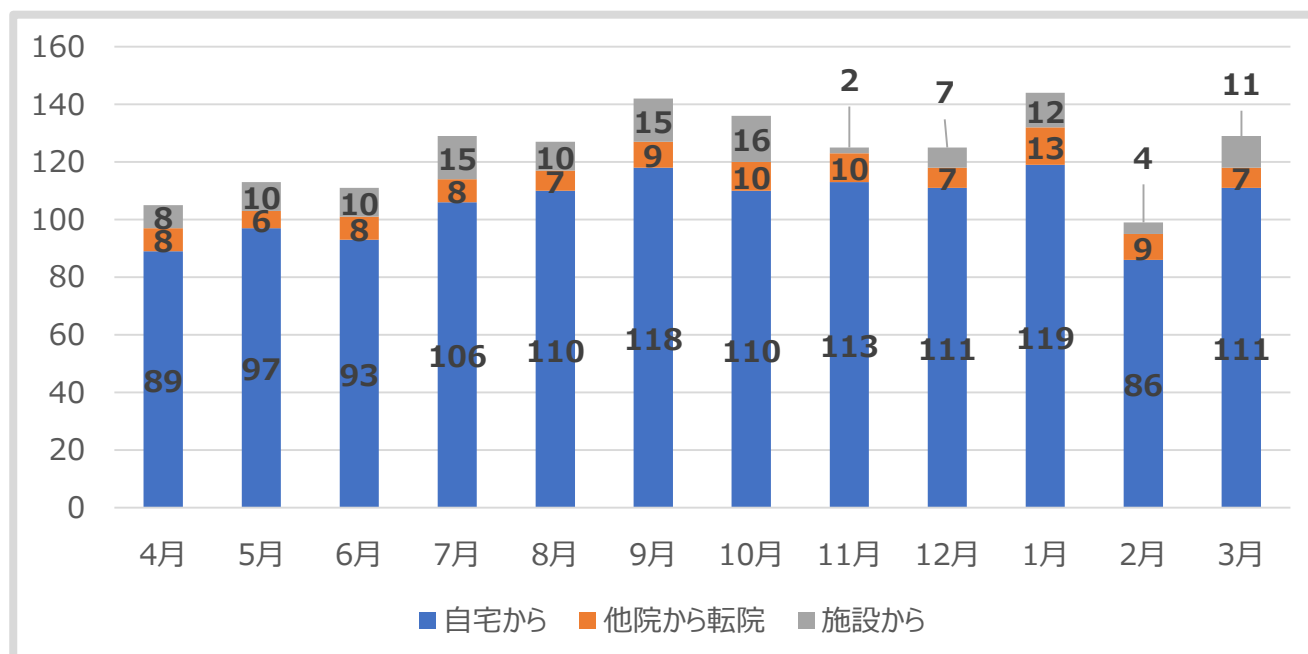


※月別の全病棟への入院患者数を集計しています。

※年間の合計は 1,508 人でした。

経路別入院患者数

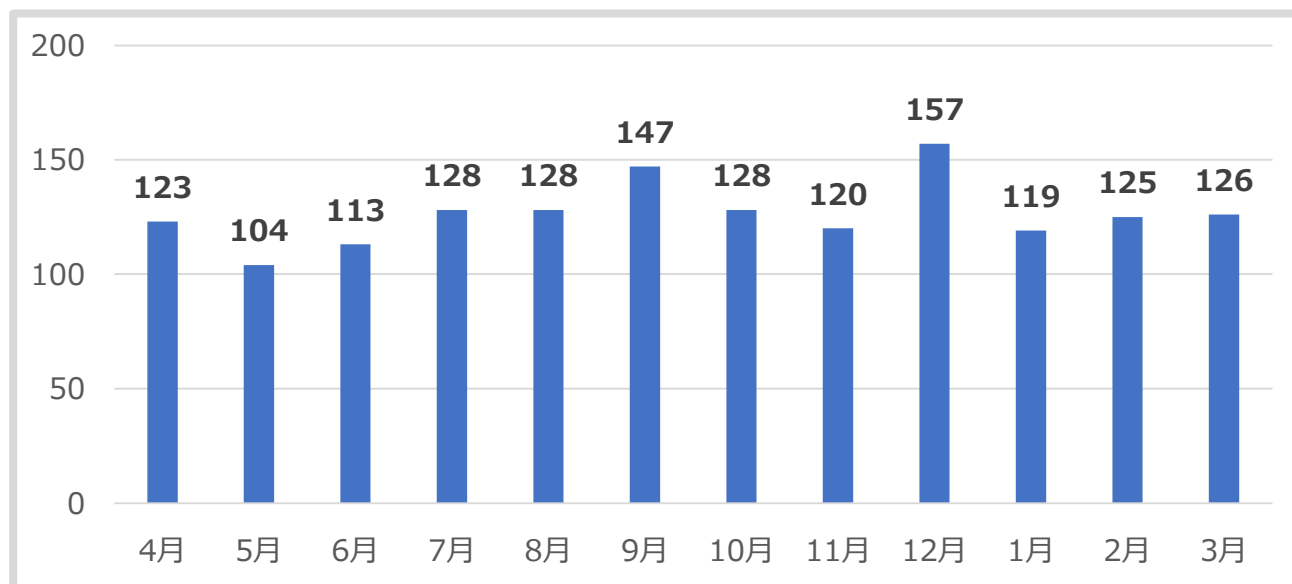
単位：(人)



※入院経路別(どこから当院へ来院し入院されたか)に入院患者数を集計しています。

退院患者数

単位：(人)



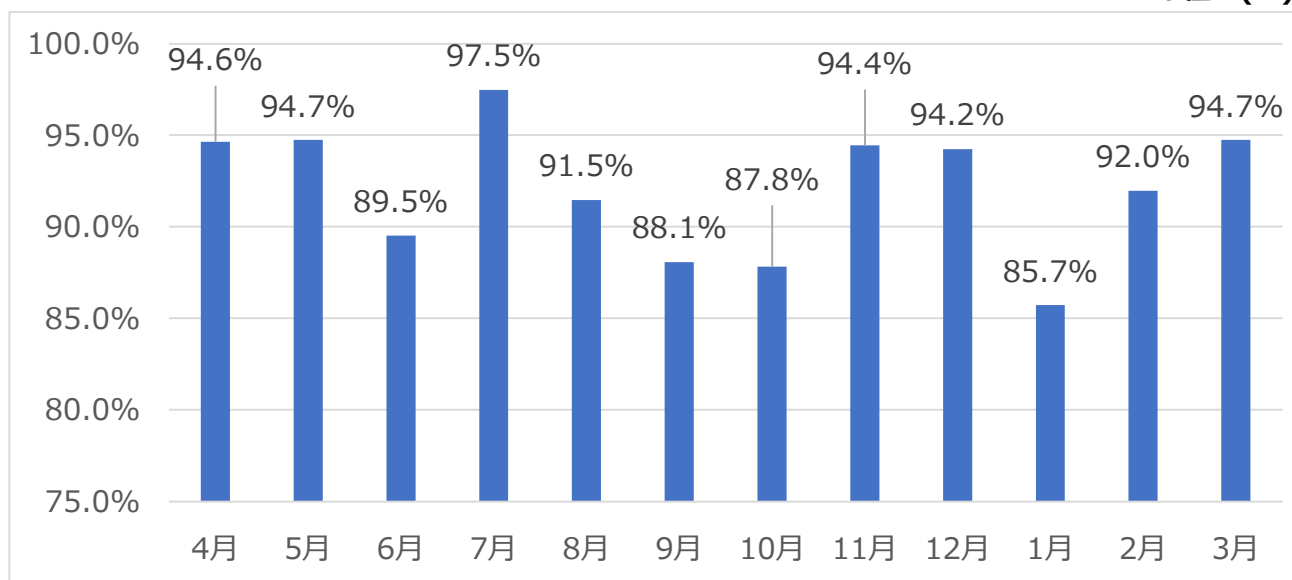
※月別の全病棟からの退院患者数を計上しています。

※急性期病棟から地域包括ケア病棟への転棟は含んでいません。

※年間の合計は 1,518 人でした。

在宅復帰率

単位：(%)

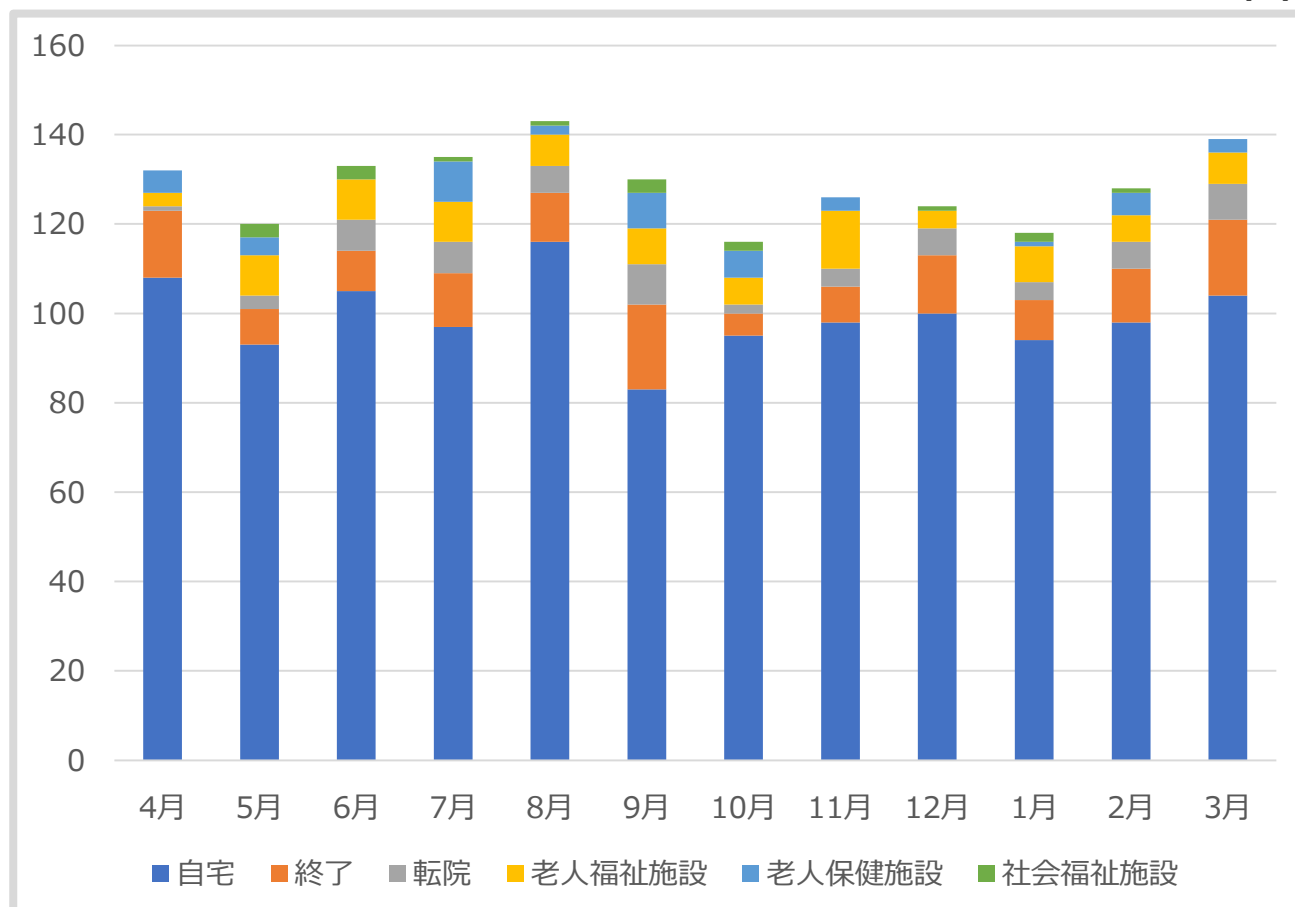


※退院先のうち、自宅や居宅系介護施設(特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など自宅に準ずる施設)に退院した割合です。

※年間の在宅復帰率は 92.1% でした。

退院経路別患者数

単位：(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自宅	108	93	105	97	116	83	95	98	100	94	98	104
終了	15	8	9	12	11	19	5	8	13	9	12	17
老健保健施設	1	3	7	7	6	9	2	4	6	4	6	8
老人福祉施設	3	9	9	9	7	8	6	13	4	8	6	7
転院	5	4	0	9	2	8	6	3	0	1	5	3
社会福祉施設	0	3	3	1	1	3	2	0	1	2	1	0

※退院した全患者を退院経路ごとに集計しています。

※地域包括ケア病棟へ転棟した患者は除いています。

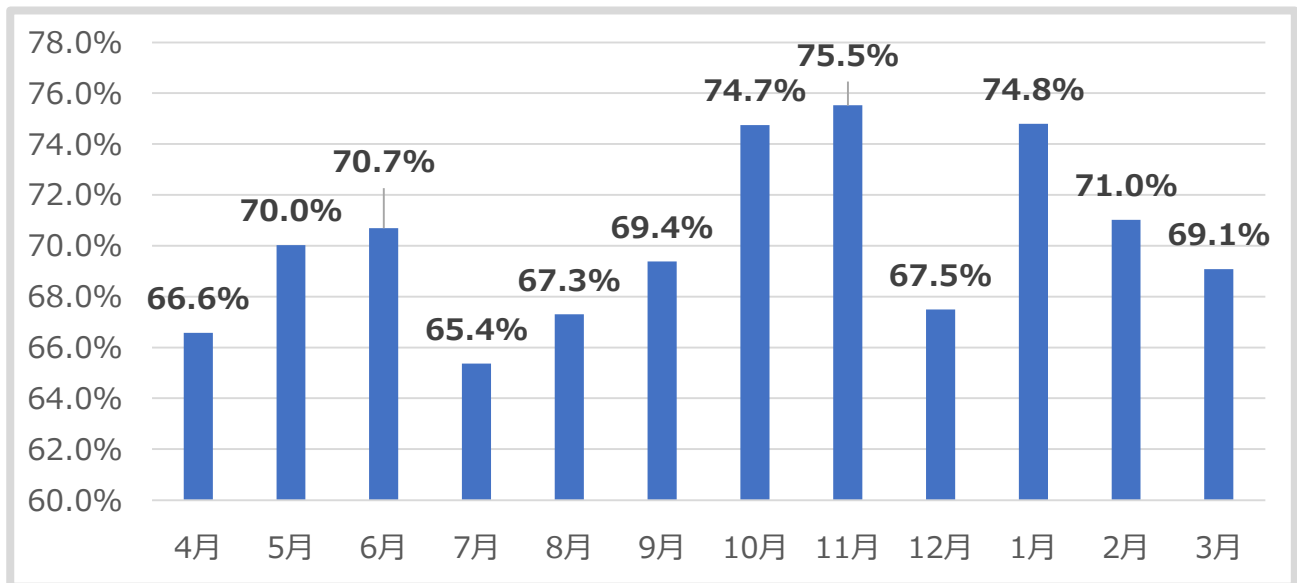
※終了：死亡した患者

※老人福祉施設：特別養護老人ホーム等を指します。

※社会福祉施設：有料老人ホーム、養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、軽費老人ホーム等の総称です。

病床稼働率

単位(%)



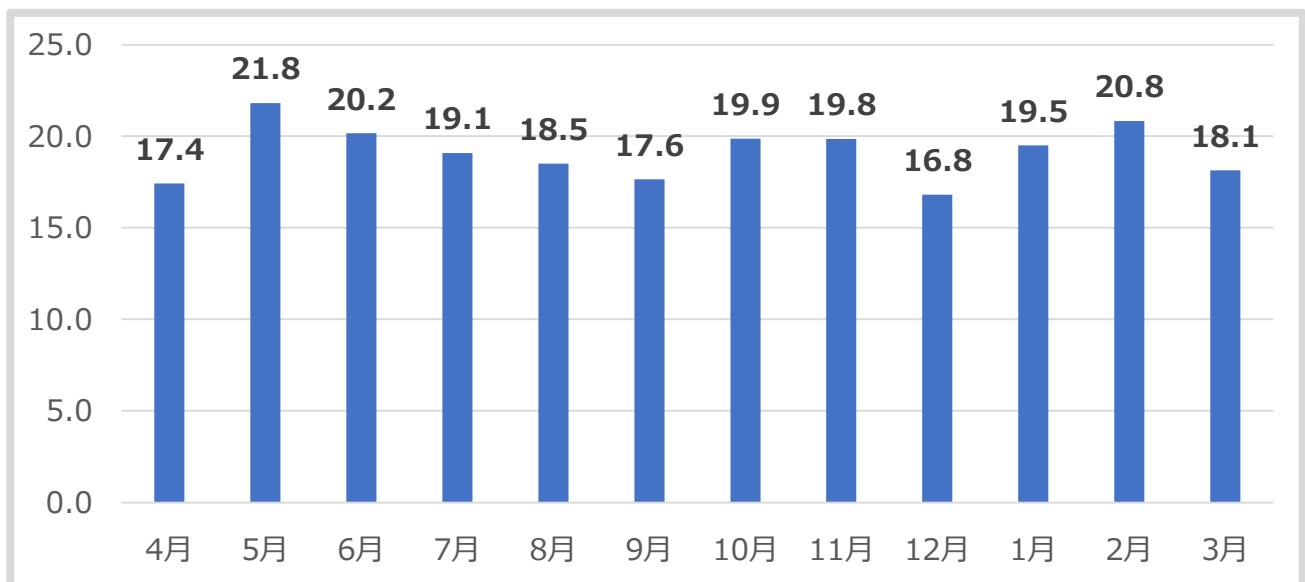
※使用可能な病床数に対し患者さんがどのくらいの割合で入院していたかを示す指標です。

※1カ月の病床稼働率(%) = 入院患者数(その日の退院患者数も含む) × 100 ÷ 病床数 × 1カ月

※年間の病床稼働率は70.2%でした。

平均在院日数

単位(日)



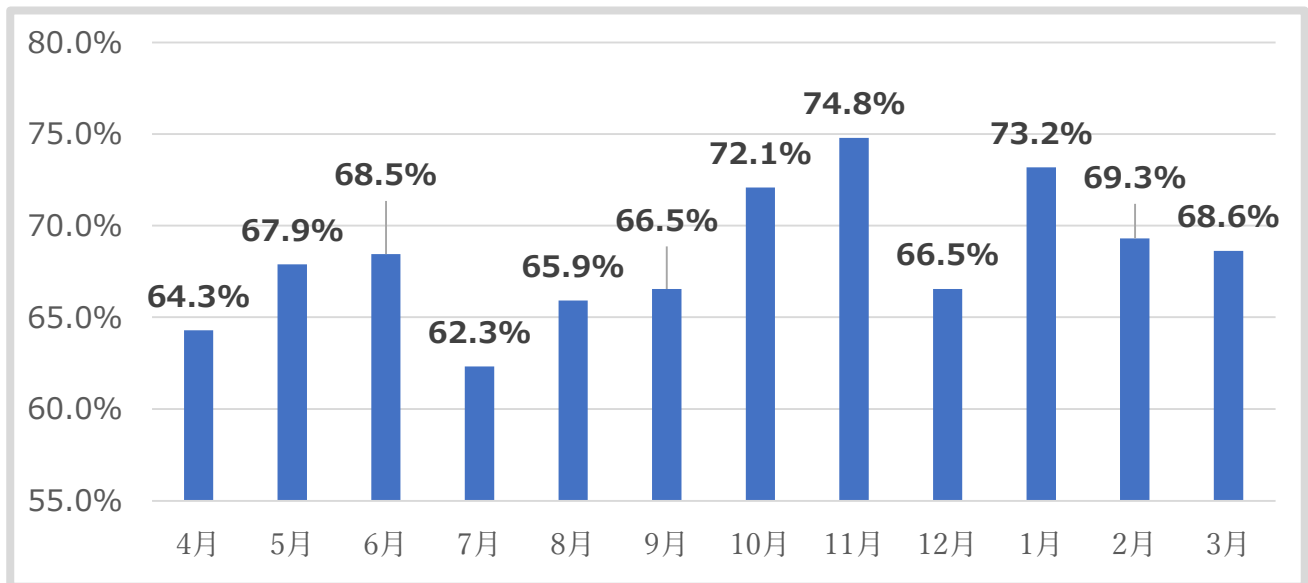
※平均在院日数とは入院してから退院するまでの日数の平均を表しています。

※平均在院日数 = 「在院患者延数」 ÷ (「新入院患者数」 + 「退院患者数」) ÷ 2

※年間の平均在院日数は19.1日でした。

病床利用率

単位(%)

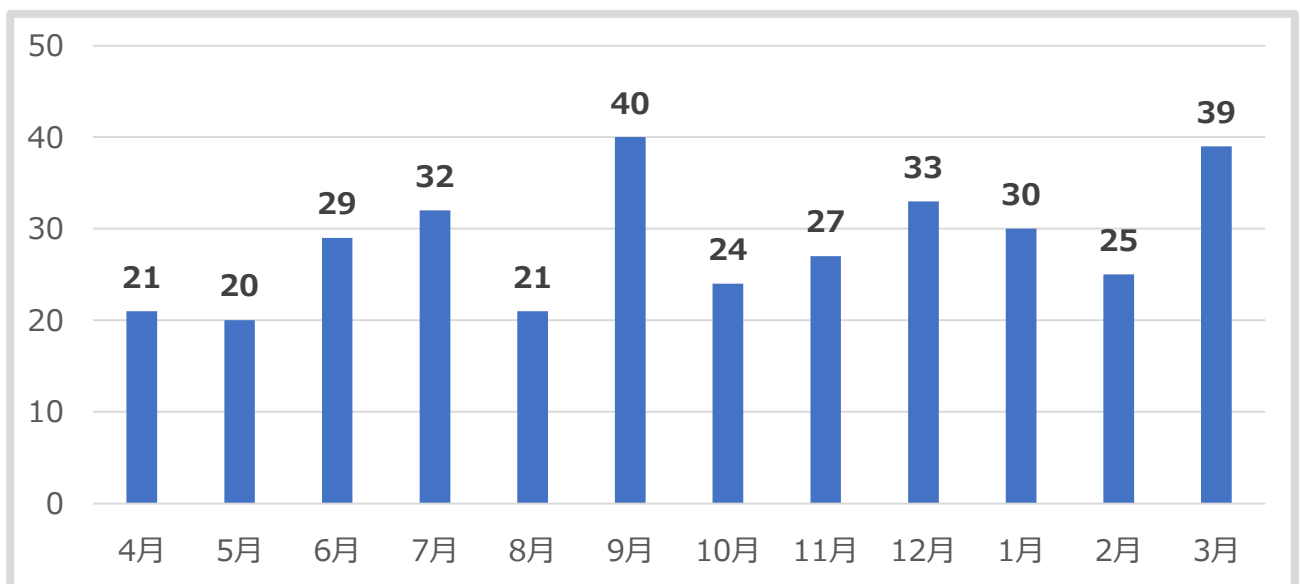


※病床利用率は、入院可能な病床がどれほどの割合で利用されているかを示しています。

※年間の利用率は 68.3%でした。

手術件数

単位(件)



※手術室で実施された手術を集計しています。

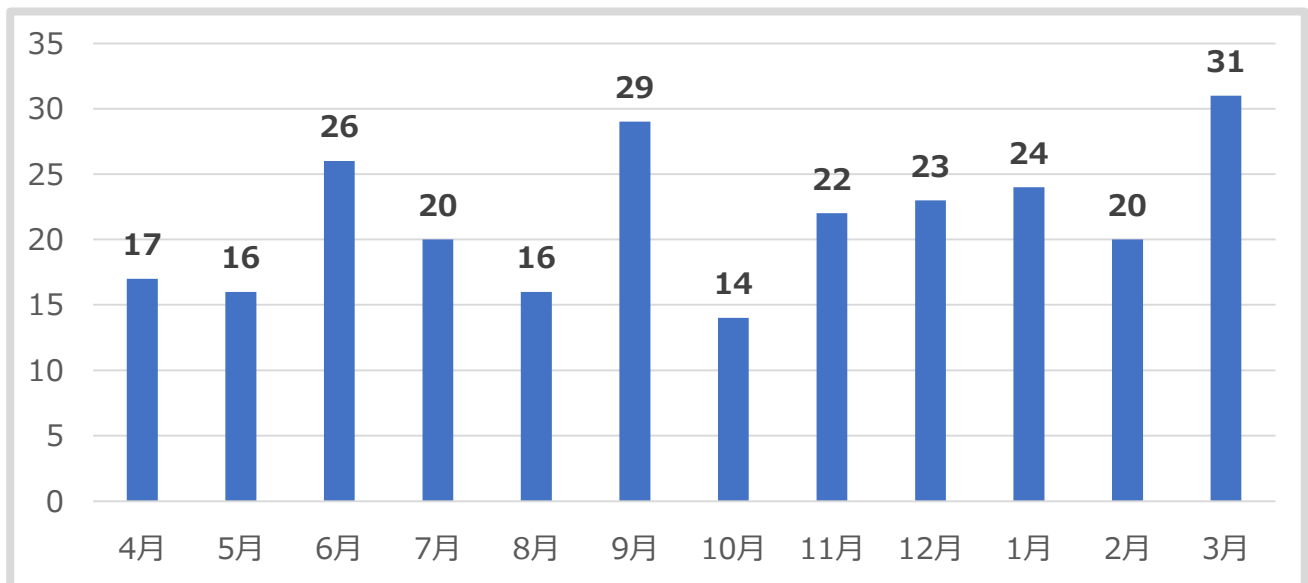
※処置室で実施される簡易な縫合処置や骨折に対する徒手整復術(切開を行わずに、外部から元通りの形に戻すこと)、内視鏡による手術(腹腔鏡による手術を除く)は件数から除外しています。

※同時に複数手術された場合も 1 件としてカウントしています。

※年間の合計は 341 件でした。

麻酔(全身麻酔・脊椎麻酔)件数

単位(件)



※年間の実施件数は 238 回でした。

内視鏡検査件数

単位(件)

上部内視鏡検査	上部内視鏡検査(検診)	下部内視鏡検査
873	1,113	493

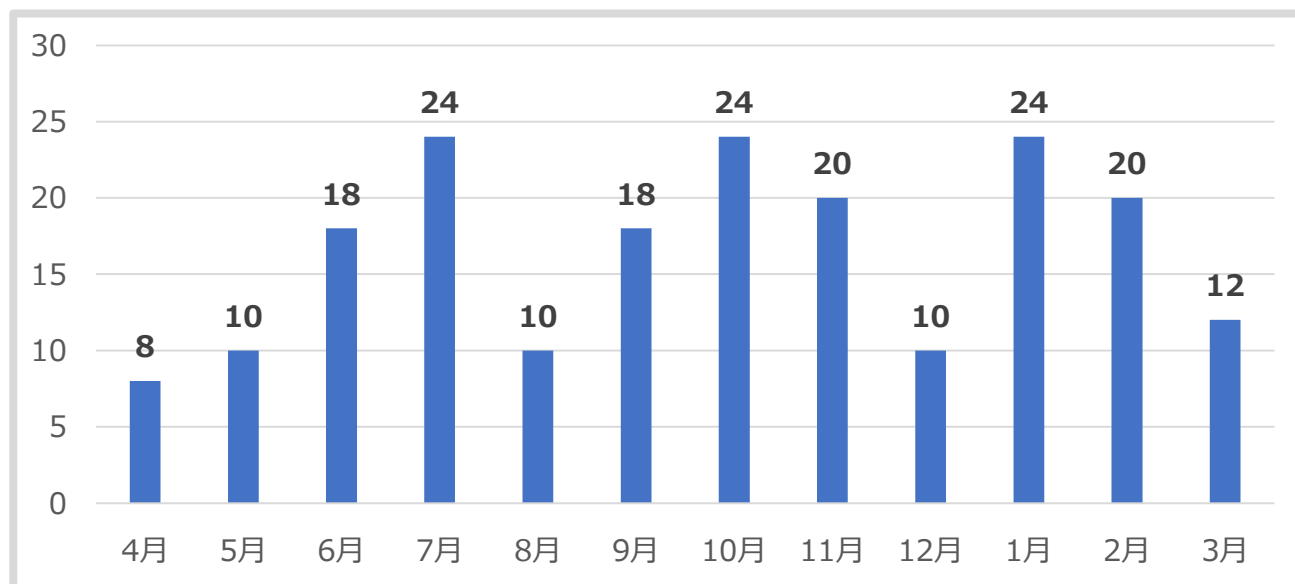
各種検査件数

単位(件)

CT 撮影	MRI 撮影	胸腹部超音波検査	心臓超音波検査
2,885	1,122	1,446	635

内視鏡手術件数

単位(件)



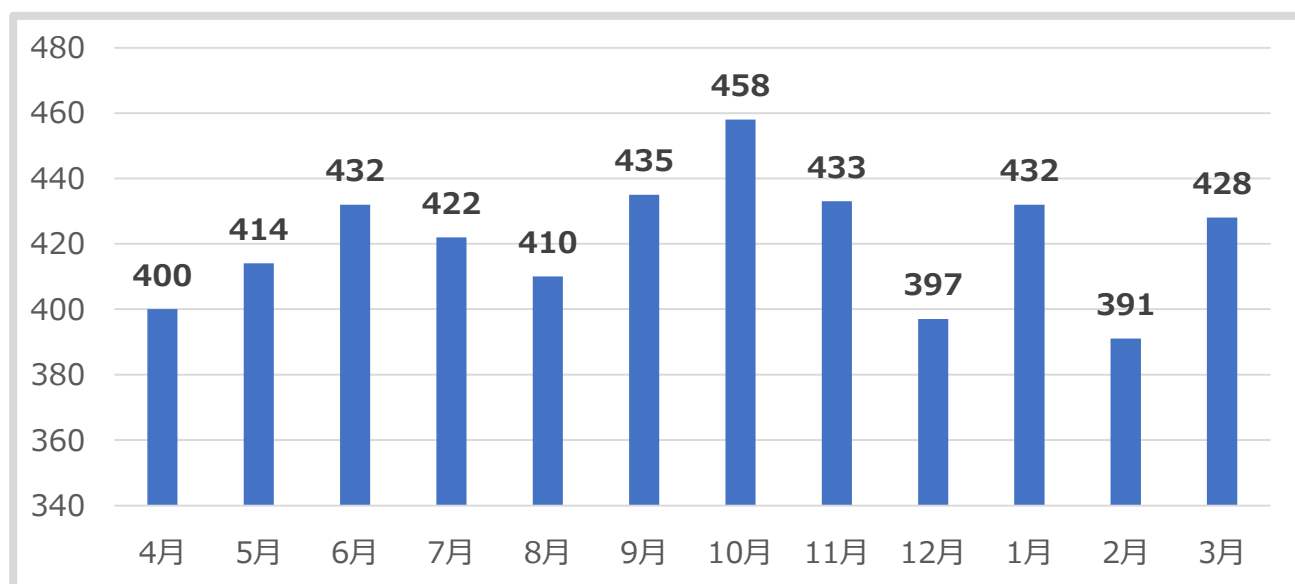
※内視鏡手術には主に以下の手術実施件数を集計しています。

内視鏡的大腸ポリープ切除術・内視鏡的消化管止血術・小腸結腸内視鏡的止血術・内視鏡的胃食道異物除去
食道狭窄拡張術・内視鏡的乳頭切開術・内視鏡的胆道結石除去術・内視鏡的胆道ステント留置術など

※年間の実施件数は 198 件でした。

薬剤管理指導件数

単位(件)

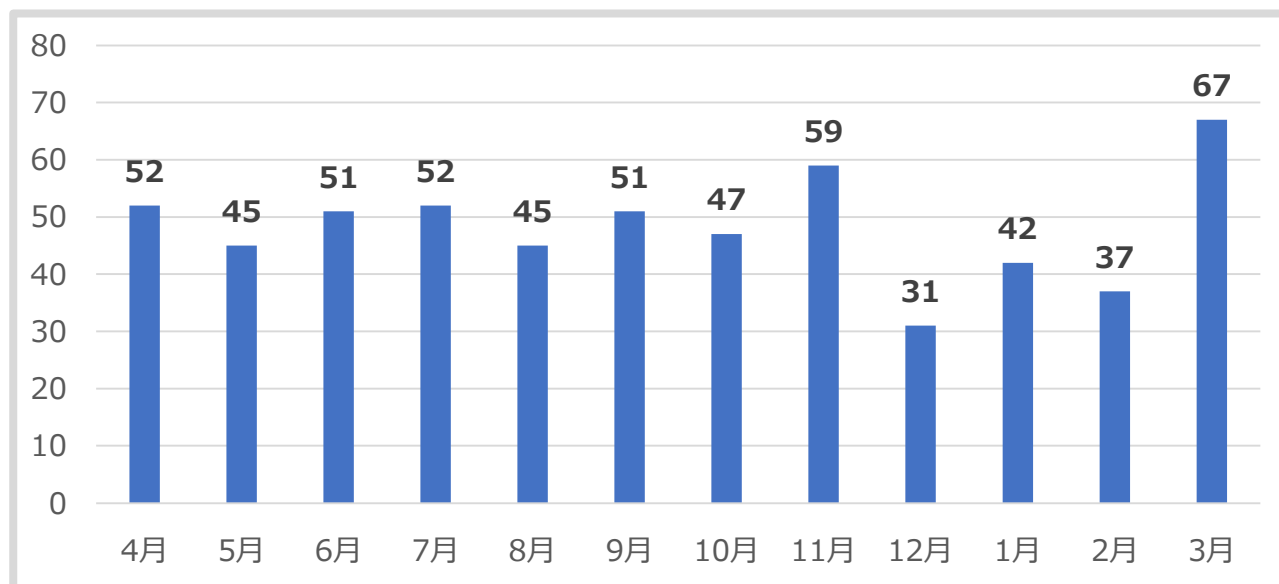


※安全管理が必要な薬剤に対する指導とその他の薬剤への指導をすべて含んだ件数です。

※年間の実施件数は 5,052 件でした。

インシデント・アクシデント発生件数

単位(件)



※インシデント：医療従事者が医療を行ううえで、“ヒヤリ”したり、“ハツ”とした経験を有する事例で、医療事故に至らなかった場合を指します。

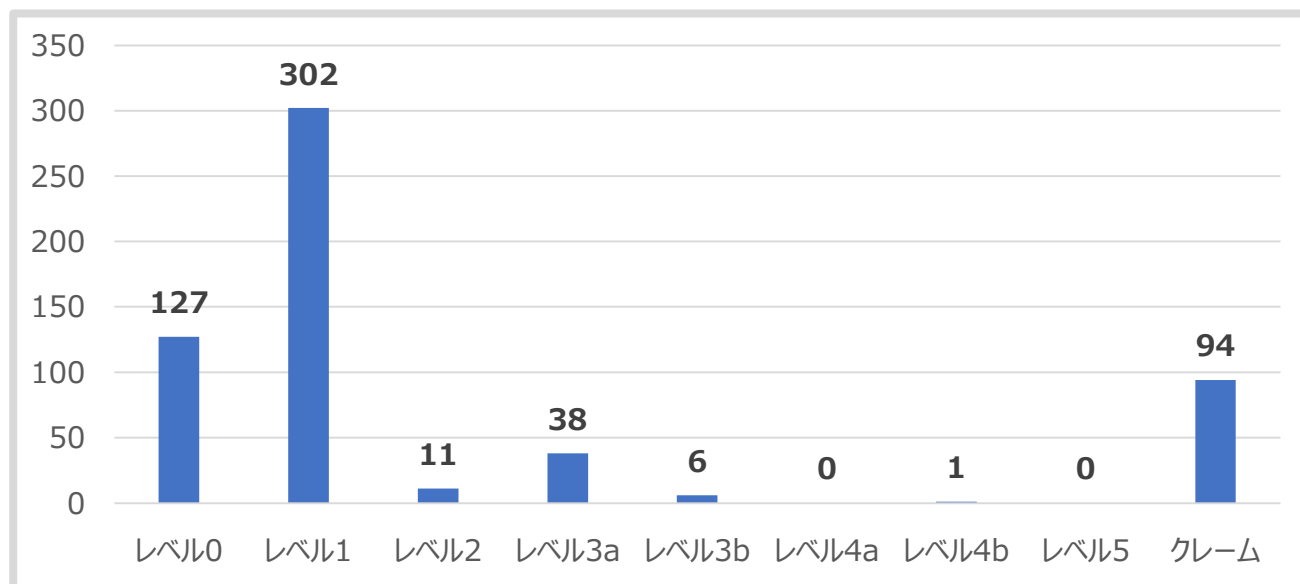
※アクシデント：医療事故として扱われます。

医療事故とは、患者さんが本来持っていた疾病や体質などの基礎的条件によるものではなく、医療においてその目的に反して生じた有害な事象を指します。医療事故には、医療内容に問題があって起きたもの（医療過誤）と、医療内容に問題がないにもかかわらず起きたもの（過失のない医療事故）があります。

※年間の発生件数は 579 件でした。

インシデント・アクシデント レベル別発生件数

単位(件)



※インシデント・アクシデントレベル内容

インシデント	レベル 0	間違ったことが実施される前に気づいた場合エラーや医薬品・医療機器の不具合が見られたが影響がなかった場合。
	レベル 1	間違ったことが実施されたが、変化がなかった場合。また、実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性は否定できない場合。
	レベル 2	処置や治療は行わなかったが、患者の観察の強化バイタルサインの軽度変化、安全確認のために検査等の必要性が生じた場合。
	レベル 3a	事故のため一時的な治療が必要となった場合。簡単な処置や治療を必要とし、消毒・湿布・皮膚の縫合・鎮痛剤の投与などの必要が生じた場合。
アクシデント	レベル 3b	事故のために継続的な治療が必要となった場合。観血的ないし侵襲的検査や治療を必要とし、バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院などが生じた場合。
	レベル 4a	事故により長期にわたり治療が続く場合。有意な機能障害や美容上の問題は伴わない場合。
	レベル 4b	事故により機能障害が永続的に残った場合。
	レベル 5	事故が死因となった場合